学生たちの視点と発見　学生たちの視点と発見　学生たちの視点と発見

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第22回

川又 大也
不動産学部3年

新型コロナと建築物の換気

平時から必要な空気の質の改善

2020年、新型コロナウイルスのパンデミックが発生したことにより、日本国内においても建築物の使用に際しては窓を開けて換気を行う「自然換気」が奨励された。

現在、新型コロナは5類感染症に移行されており、それに伴いあらゆる感染対策が緩和されて建築物の自然換気をやめる施設が増えたが、これについて疑問を持っている。

19年以前には存在しなかった感染力が極めて高いウイルスの存在を前提として、建築物を安全に使用するため、必要に応じて対策を継続すべきではないだろうか。そこで、建築物を使用する際における新型コロナの感染対策について私が思うところを述べてみたい。

建築基準法では、換気について一定の基準が定められている。それを踏まえて新型コロナの流行初期から際に計測し利用者に明示している施設もあるが、このように換気の基準に基づいて換気を確保する必要があるのではないだろうか。また、換気に代えて空気清浄機などを用いて空気を奇麗にするといった対策も挙げられる。エアコンの稼働する時期など、省エネ対策上、窓を開けての自然換気が難しい時期に活用することで建築物の快適さを確保しながら新型コロナの対策ができるだろう。

新型コロナウイルスが5類移行したからといって窓からの自然換気をやめてしまって良かったのだろうか。新型コロナウイルスは感染力が高く変異も繰り返しており、感染者は増減を繰り返しているのが現状である。

海外では今日においても慎重に見ている機関もあり、例えば(CDC)アメリカ疾病予防管理センターは換気や空気の質の改善などを勧告している。新型コロナは未だに不明点が多いが、研究が進み、軽症でも呼吸器に留まらず脳や神経へのリスクも示唆されている。

これらのことから油断するのは時期尚早ではないかと感じている。建築物を安全で快適に使用できるよう、自然換気や空気清浄機による空気の質の改善などによる合理的な新型コロナ対策を行う工夫が求められるのではないかと私は考える。

【教員コメント】5類移行後も、換気の重要性は変わらず、状況に応じて自然換気も活用して換気量の確保が求められている。しかし必要性も効果もなかなか実感しにくい。換気、空気清浄機、うまく組み合わせて使える身近な空気の質の指標が必要ではないか。(齋藤千尋)

あらゆる場所で窓を開ける自然換気が推奨された。ウイルスに対する換気の重要性について認識できただろう。現在は5類移行により自然換気をやめる場所が増えたが、感染症法の分類ありきではなく、ウイルスの特性に着目したより明確な根拠が必要だと考える。

二酸化炭素濃度など空気の質を実